

経営体の概要

- ・所在地:岐阜県大垣市
- ・経営体名:株式会社DIB
- ・栽培作物・作付面積:水稻 65ha、(ナシ 0.35ha)
- ・従業員数:常勤（正社員4名、パート1名）
臨時（パート10名）（令和6年5月現在）

導入技術

・KSAS（(株)クボタ 製）

水田情報や作業履歴等を地図情報と統合したデータベースにアクセスし、作業の確認や作業履歴の蓄積をするなど農業の見える化を実現できる。このほか農業機械にICT技術を組み合わせ農作物の高品質化や低コスト化を支援する。

導入経緯

- 経営規模拡大に向け、管理水田が増えることに伴い、ほ場管理や作業時のほ場特定に時間を要し、効率が低下することが見込まれた。
- そこで、ほ場管理の効率化を目的に、平成28年にKSASを導入した。

取組の特徴・効果

- 資材の購入量・使用量の計算や、ほ場・品目ごとのコスト計算が行いやすく、管理がしやすくなった。
- 人、作業、作物まで一元的な管理が行えるため、社内の情報共有が図りやすくなった。また、ほ場間の移動ロスが減り、作業の重複や、やり残しが確認できるようになった。
- 人、モノなど経営資源の状況を見える化することで、関係者との情報共有が容易になった。また、客観的なデータをもとに実績を把握し、目標と比較できるようになった。
- 平成29年度に導入したKSAS対応コンバインを使用し、ほ場毎の収量に応じ、翌年の施肥設計や水管理に役立てている。



ほ場管理画面



生産コスト等確認画面